

青森県立高等学校魅力づくり検討会議西北地区部会（第2回）概要

日時：令和5年12月14日（木）

14：15～16：45

場所：五所川原農林高等学校 会議室

<出席者>

西北地区部会委員

中村 佐 地区部会長、原 真紀 地区部会副会長、児玉 恵昭 委員、
齋藤 実 委員、佐々木 勝規 委員、佐々木 邦和 委員、玉井 勝弘 委員、
奈良 陽子 委員

1 開会

外崎高等学校教育改革推進室長から挨拶があった。

2 事務局説明

地区部会における検討の進め方について

事務局から、資料2及び資料2の附属資料について説明した。

3 意見交換

地区部会における検討の進め方について学校・学科の充実の方向性（整理案）【たたき台】について

事務局から、押さえておくべき基本的な事項等として、これまでの会議資料について説明した。

<これまでの会議資料>

- ・7/7 検討会議（第2回）資料4「学校・学科・教育制度等の現状」
- ・8/7 第1分科会（第2回）資料4 附属資料①「各校のグランドデザイン」
資料4 附属資料②「各校の教育活動の状況」
- ・10/5 第1分科会（第4回）資料2「高等学校教育に関する意識調査（速報）」

I 魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方

事務局から、資料3の全体構成と、「1 検討に当たっての視点」、「2 求められる力と人財像」及び「3 県立高等学校教育の方向性」について説明した。

委員から次のような意見があった。

(働き方改革)

- 小・中学校の教員は本当に忙しく、「教員の人数を増やしてほしい」、「特別な支援を必要とする児童生徒への対応のため、授業に支障をきたしているので、特別支援教育支援員を増やしてほしい」など、地域から声が上がっているが、県立高校における働き方改革の状況や教員の人数はどうなっているのか。どの校種の教員も夜遅くまで学校で仕事をしているというイメージがあるが、実態はどうか。
- 学校現場において、働き方改革は進んでおり、計画的かつ個別に、丁寧な対応をしている。ただ、土日に進路指導や部活動等を行うこともあり、中には遅くまで勤務している教員もいるが、校長の方針でなるべく早く帰ったり休んだりするようにという話もしているため、そこまで多くの教員が遅くまで勤務しているということはない。
- 働き方改革の状況や教員の勤務時間については、各校によって異なると思う。本校は農業高校のため、季節や収穫時期に左右されたり、行政や地域との連携として、土日に活動したりすることもある。そうすると、振替を取るなどしなければいけないが、授業があるためなかなか休めないのが現状であり、働き方改革を進めようとしても厳しい部分もある。時間外勤務が100時間を超える教員も何人かいたが、そういった場合には強制的にでも休んでもらったり、別の教員に授業をお願いしたりするなど、配慮をしながら何とかやっているような状況である。

(県立高等学校に求められること)

- 2ページの3(1)の【県立高等学校としての役割】の○の4つ目について、いわゆる消費者教育とか主権者教育などを強化することなのか、それとも、これからの時代に求められる人財像のようなものなのか。
→(事務局) 後者であると思う。

(県立高等学校教育の方向性)

- 自分の将来を考えて高校を選択する際に中学生が感じた魅力と、入学後、実際に学んでみたときのギャップを感じる生徒は多いと思う。本県の子どもたちが学びたい場所で学びたいことを学べる環境づくりという視点で考えたとき、学びたい場所で3年間学び続けるという考え方のほか、1年間学んでみて、別な学びの場を求めたときに、そういった学び方を提供できる環境を整備するという考え方もあると思う。現状の仕組みとして、転学や編入学などはあるが、入学者選抜を経ていることもあり、ハードルは高いように感じる。今後は、高校入学後のギャップや新たな魅力を感じた生徒の学びを継続していくためにも、県立高校が同じ設置者である強みを生かし、転学などのハードルを下げているような仕組み等についても考えていく必要があるのではないかと。

- 3ページの【キャリア教育の充実】の○の1つ目について、普通科においてもキャリア教育を更に推進とあるが、普通科におけるキャリア教育というのは、具体的にどのようなことを狙ったものなのか。
 - (事務局) 職業教育を主とする専門学科では、実習や職に触れる機会があるが、地域産業における後継者不足という課題もあるため、普通科の生徒にも第1次産業に触れる経験をさせたらどうかといった意見であった。
- キャリア教育において、将来的な職業選択に関わるようなことも大事であるが、地域愛や地域貢献など、いわゆるキャリア発達に関わる部分は、普通科こそ大事であると思う。高校卒業後、地域を離れたとしても、いずれは地域に帰ってきて、地域貢献や地域活性化をすところまでを見据えながら、キャリア教育の充実に努めていくべき。

- 様々な県立高等学校教育の方向性が打ち出されているが、一番難しいのはこれらをどのように学校現場に落とし込んでいくかだと思う。教員がこれらの考え方を理解し、実際の手法に組み込んでいけるか、また、その手法が生徒にきちんと伝わるかといったことを念頭に置きながら検討を進め、実践していければよいと考える。

- 3(1)の○の3つ目「学科横断的な取組やSTEAM教育などを更に広げ、深化させること」がキャリア教育の充実につながるという考え方でよろしいか。
 - (事務局) STEAM教育は実社会で役立つ知識とされており、キャリア教育の中には実際の生き方や在り方の部分も含んでいるため、共通する部分も多いと考える。

Ⅱ これからの時代に求められる学科等の充実

事務局から、資料3「1 全日制課程 (1) 普通科等」について説明した。

委員から次のような意見があった。

(外国語科・グローバル探究科)

○ 今後の方向性として、コミュニケーション能力が重視されているが、10年、20年先を見据えたときに、現在、外国語科で学習している英語やロシア語の学習の継続を想定しているのか。

→ (事務局) 青森南高校の外国語科が、令和6年度からグローバル探究科に学科改編するに当たって、外国語科で学習していたロシア語の教育活動は今後実施せず、グローバル探究科では、英語をツールとして、ディベートや意見交換を行い、コミュニケーションをとおして多様な文化を理解するなど、国際的素養を身に付け、英語を使って社会に関わっていく人財を育成するという方向性で、現在、学校において教育課程等を検討しているところ。

○ 6ページの【教育内容】の○の3つ目に「第二外国語については、引き続き必修とすべき」とあるが、これについては何か方向性が決まっているのか。

→ (事務局) グローバル探究科では、英語のみの学習で、第二外国語は実施しない予定であり、第二外国語を選択科目にするなどの可能性はあるが、現時点では探究活動に重点的に取り組んでいくこととしている。

事務局から、資料3「1 全日制課程 (2) 職業教育を主とする専門学科」と「(3) 総合学科」について説明した。

委員から次のような意見があった。

(農業科)

○ 10ページの【教育内容】の○の3つ目について、例えば、工業高校の生徒が農業高校へ来て、温室にセンサーを取り付けるなど、現場実習を兼ねながら、他学科の分野横断的な学びにより、知識や理解を深めることは非常に良いと思う。

こうした他学科の分野横断的な学びに関する意見は、工業科や商業科の方でも出ているのか。

→ (事務局) 28ページからの「多様な主体との連携の推進」の中で意見として出していたものを紹介する。

・ 29ページ「オ 今後の方向性」○の1つ目、「複数の大学科が設置されている場合には、共通のテーマのもと他学科と連携でき、意義がある」といった意見がある一方で、○の2つ目「専門科目の内容等から難しい部分もあるため、各校や各学科の実情に応じて、より効果的な方法で推進していくことが重要」といった意見もあった。

- ・ 28ページ「イ 現状における課題」として、「学科の枠を超えた学びは非常に魅力的であるが、例えば、生徒が農業のある分野を学びたいという明確な目的を持って入学した場合、その分野以外の専門科目を学びたいということにはならないのではないか」といった意見もあった。

(総合学科)

○ 地域から見た木造高校総合学科の魅力に関して、地域から声が届いているので、いくつか紹介する。

- ・ 時代の要求に応じた教育方法を取り、総合学科の特性を生かして個人やグループでの学びを生かし、全生徒、教職員はもちろん、地域と連携して、持続可能で子どもたちの将来につながる学びとなっている木造高校の取組に魅力を感じている。
- ・ 西つがる地区に木造高校ありという上記のことからも、西北地区の中核高校として、生徒は生き生きとした高校生活を送り、自分探しができる高校生活を送れていると感じている。

<具体的な事例>

- ・ 地域と一体となって地域の歴史や行事を相互に学び合いながら、理解し、祭りやボランティア活動などにも積極的に参加してもらっている現状を見ると、地域の産業ともつながる教育活動として、地域コミュニティの核となっている。
- ・ 総合学科での探究活動を軸に、教室だけでは学べない課題に対して、地域の大人と協働しながら、主体的に生き生きと学んでいる。
- ・ 総合学科の特性と、探究活動やおもい創造学をとおして、主体的に調査・研究することにより、気付かなかった自分の能力を開発することができている。
- ・ 部活動でも、これまでの伝統を生かしつつ、地域の小・中学生と合同練習等で子どもたちの憧れの高校生である。
- ・ 生徒の進路指導においても、総合学科として多様なニーズに合わせてきめ細かい指導がなされ、生徒の進路達成に向けて学校がバックアップしてくれている。

(全日制課程全体)

○ 今後の方向性として様々な意見が出ており、実際に学校現場においても様々な取組が行われていることを考えると、これ以上のアイデアはなかなか出ないのではないか。大事なのは、今後の方向性の実現に向け、子どもたちが本気になって、自分の将来のビジョンを持って取り組んでいくことであり、その部分が少し足りないように感じている。

また、各校の魅力や各校で行っている取組を、地域の住民や中学校にアピールすることが大事。

加えて、本検討会議で出された意見や方向性を学校現場や保護者に周知していくことも必要なのではないか。

→（事務局）県教育委員会では、各校の部活動や教育制度など、各校の情報発信を目的に、「あおり県立高校情報ガイドホームページ」を今年度新たに立ち上げたところ。この情報ガイドホームページから各校のホームページに飛ぶこともでき、多くの中学生や保護者の閲覧が想定されるため、今後、各校のホームページの充実を図る必要がると考えている。また、各校において、スクール・ミッションを踏まえてスクール・ポリシーを策定したところであり、これらに基づいた教育活動について、中学生や保護者等に分かりやすく示すため、教育活動全体をイメージ図で表したグランドデザインを作成している。

○ 今後の方向性やビジョンを教員に伝えていくとともに、教員がきちんと対応できるようフォローしていく必要があるのではないか。

（その他）

○ 学校・学科の充実の方向性が、今後、資料として保護者の手元にも届くのであれば、「イノベーション」や「グローバルリーダー」などといった横文字は避けるか、注釈を付けるなど、誰にでも分かるような記載としてほしい。

事務局から、資料3「**2 定時制課程**」及び「**3 通信制課程**」について説明した。

委員から次のような意見があった。

（通信制課程）

○ 20ページ「ウ 今後の方向性」の【教育内容】の○の2つ目について、社会との接点を持ちたくない生徒もいると考えられるため、「機会を増やす」という表現ではなく、「生徒の状況に応じて」という表現の方が適切だと考える。

○ 近年では、不登校や集団行動が苦手な生徒が増加し、通信制のニーズが高まっており、今後は、多様な生徒を受け入れつつも、魅力ある教育課程を編成し、学び方を選べる魅力ある学校であることを発信していかなければならない。また、西北地区では、五所川原第一高校の通信制やアシストクラスを希望する子どもたちが多くなってきているように感じており、今後、西北地区の県立高校としても、多様な生徒を受け入れる環境を整備する必要があると考える。

○ 不登校や集団行動が苦手な生徒が増加しているのであれば、専門性の高い通信教育を受けられるような環境を整備すればよいと思う。青森県でそのような環境を整備することが難しいのであれば、専門性の高い通信教育を受けられる他県の高校を紹介するなど、県内の高校に限定するのではなく、生徒の選択肢を広げることも大切なのではないかと。

Ⅲ 多様な教育制度

事務局から、資料3「1 中高一貫教育」、「2 全日制普通科単位制」及び「3 総合選択制」について説明した。

委員からの意見はなし。

Ⅳ 各校の特色ある教育活動の充実に向けた取組等

事務局から、資料3「1 特色化の推進」、「2 多様な主体との連携の推進」及び「3 小規模校における教育活動」について説明した。

委員から次のような意見があった。

(全国からの生徒募集)

○ 全国からの生徒募集は、全国的に見ても非常に多くの高校で実施されているが、なかなか生徒が集まらなると聞いている。また、全国からの生徒募集導入校において、魅力ある取組を実施したり、魅力発信に取り組んだりしているが、本県の入学者選抜の実施時期が遅いという話も聞いている。いくら魅力ある取組を実施しても、入学者選抜の実施時期が遅いとなれば、そもそも本県の高校に目が向かないと思うが、これまでの会議において、入学者選抜の制度に関する意見は出なかったか。

→ (事務局) 33ページにあるように、全国からの生徒募集に限った話ではないが、入学者選抜の制度全体に関する御意見はいただいている。

また、本県の入学者選抜の実施時期が遅いという話は確かに聞こえてきているが、何と比べて遅いのかといったこともあると思う。他県と比べて遅い、私立高校と比べて遅いなど、様々あると思うが、今後の方向性については検討段階にあるため、様々な御意見をいただきたい。

(ICTの活用による教育環境の充実)

○ 26ページ「イ 遠隔授業の実施と効果」の【多様な学習機会の提供】の○の3つ目と関連するが、西北地区において、サテライト教室のようなものを設置し、ICTを活用しながら、他校の授業を受けることができるような環境を整備することができれば、地域の高校を閉校することなく、生徒のニーズにも対応できるのではないかと。地域によっては、高校がなくなることによって地域の活性化にも大きく影響するため、サテライト教室を設置することで、協力してくれる自治体も出てくると思う。また、サテライト教室には、管理能力がある校長経験者を再任用で配置することで、多様な対応が可能になると考える。これから20年、30年後のことを考えれば、サテライト教室における遠隔授業等を実施していかなないと、地域から人がいなくなってしまうのではないかとといった危機感を持っており、そういった新たな制度も含めた仕組みづくりを検討していく必要があると考える。

(高等学校同士や異なる学科間の連携)

- 地域からの声を紹介したい。地域としては、県教育委員会が設定した重点校、拠点校、地域校という指定が普通科を強調しているように聞こえ、総合学科等の各校の魅力を阻害することにつながっているのではないかと危惧しているとのこと。また、重点校、拠点校、地域校の名称を変更あるいは廃止するべきではないかといった意見もあった。

V 第2分科会での検討における留意事項等

委員からの意見はなし。

地区部会長から、「12月12日(火)に開催された中南地区部会において出された意見等について、事務局から紹介してほしい」との発言があった。

→(事務局) 本日の会議でもあったような通信制課程に関する意見や、特別支援教育に関する意見、授業改善に関する意見などが出された。

また、本日の会議でも、学校において様々な取組をしていて、あらゆる方法で情報発信をしているにもかかわらず、小・中学生やその保護者に情報が伝わっていないといった話が出ていたが、小・中学生や保護者に情報を伝えるためにどういった媒体を使えばよいのかは気になるところ。

加えて、高校教員が中学校を訪問して実施するガイダンスについて、中南地区のある中学校では、私立高校はガイダンスをしに来るのに、県立高校は全然来ないといったような話があった。西北地区の状況はどうなのか聞きたい。

→(各委員)

- ・ 本校では、県立高校と私立高校の教員に来ていただき、2年生に対してガイダンスを実施している。本校と同様、西北地区の多くの学校で、ガイダンスを実施していると思う。
- ・ 本校でも、中学校に訪問し学校説明会を行っており、進学状況や本校の魅力について宣伝している。学校の魅力の発信は今後ますます必要になってくるものと考えている。
- ・ 私には、小学生の子どもが2人いるが、テレビはほとんど見なくなり、ユーチューブやインスタグラムにより情報を得ている。
- ・ 小・中学生はユーチューブ、保護者もSNSにより必要な情報を得ていると思う。
- ・ 私には、小学生の子どもが2人いるが、基本的にユーチューブばかり見ているため、情報の正しい取り方などについて、その都度話をするようにしている。

また、情報発信の仕方は、この10年で大きく変わったと感じており、学校における情報発信の仕方も時代に合わせて変えていかなければならないと考える。

今後は、地域と連携しながらキャリア教育を行うなど、社会の変化や多様化に対応できる人財の育成に向け、やるべきことを取捨選択していくことも大事だと思う。

- ・ 西北地区においては、県立・私立にかかわらず、各校の頑張っている様子は、中学校に伝わっていると思う。高校からの情報発信や様々なお便り等により、子どもたちや保護者にも意外と情報は入っていると思うので、SNS等をうまく活用していけば、更に情報が伝わっていくのではないかと。

→(事務局) 県教育委員会では、県立高校の魅力づくりを進めているわけだが、もちろん今までも魅力はあったはず。一番大事なのは、各校の魅力を子どもたちに伝え、子どもたちが魅力ある高校の中から、自分の意思を持って選択することだと思っている。

地区部会長から、西北地区部会の委員構成について、追加の必要の有無等を確認した。

委員から次のような意見があった。

- 西北地区には、2市5町、7つの教育委員会があり、五所川原市、中泊町、鶴田町、板柳町の教育長で組織される北五教育委員会連絡協議会と、つがる市、鱈ヶ沢町、深浦町の教育長で組織される西つがる教育委員会連絡協議会がある。西北地区部会においては、西北地区全体、つまり2市5町の教育行政を網羅した意見が出るのが望ましいと考える。ついでには、北五教育委員会連絡協議会の教育長会の会長である私のほか、西つがる教育委員会連絡協議会の教育長会の会長であるつがる市の教育長に委員として参加していただければ、高校に送り出す義務教育の立場からも広く意見が出てくるのではないかと。
- (地区部会長) 青森県立高等学校魅力づくり検討会議設置要綱の第5第3項では「各地区部会は、10人以内の地区部会委員で組織する」とされており、1名であれば委員の追加は可能。また、同設置要綱第5第4項では、「地区部会委員は、教育長が委嘱する」こととなっているため、いただいた御意見については、事務局と相談の上、決定したいと思うがよいか。

(異議なし)

以上のとおり、地区部会長と事務局で相談の上、決定することとした。

3 閉会